



園だより

文京区立第一幼稚園
2021年度5月号

URL <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/dai1-kg/>

青空に泳ぐ みんなのこいのぼり

園長 田村 秀子

赤やピンクのツツジが美しい季節となりました。天気の良い日は汗ばむほどで、土の庭の木陰を心地よく感じます。子供たちも園での新しい生活に少しずつ馴染んできたようです。赤、桃、黄、紫、緑の帽子をかぶった子供たちが園庭や屋上で元気に遊び、砂遊びをしたり虫を探したり、鬼遊びをしたりして、目を輝かせています。



昨年は休園中のため、預かり保育を利用していた数人の子供たちしか屋上のこいのぼりを見られませんでした。今年は大勢の子供たちが風に泳ぐこいのぼりを見ることができました。「泳いでみたい」「お腹がふくらんでる」などと大喜びでした。風が止んだ時などにこいのぼりに触ることができるのも嬉しかったようです。子供たちの感動を受け止め、先生たちは各学年の発達に応じてこいのぼりが作れるよう準備しました。

年長組は4、5名のグループに分かれ、カラービニールで作ることにしました。グループの友達と相談するのは、こいのぼりの色、目の色、うろこの形の3つです。「ぼく、緑がいい」「私は黄色がいいと思う」など自分の思いを出していましたが、なかなか決まりません。「お願いだから黄色にして」と頼んだり、「青でいいでしょ、ね、ね」と押し切ろうとする子もいました。先生が「どうして緑がいいの？」と聞くと「だって葉っぱの色みたいできれいだから」「まだ緑のこいのぼり、出てないでしょ」など、理由を言える子も出てきました。最終的にはジャンケンをしたり、譲ったりして決まり、どんどん作り始めました。初めてのグループ活動の中で、自分の思いや理由を言うこと、友達の意見を聞くこと、意見が分かれた時どうしたらいいか考えること、作り方を理解して自分にできる仕事をするなど、最後まで頑張ることなど、多くを学んでいました。うろこの形の厚紙で型をとる、鉛筆の線に沿ってハサミで切る、セロファンテープで周りをしっかり貼るなど、技能が必要な作業もありましたが、集中して頑張っていました。うろこの形を並べてみて「たくさんあるから、こっちは13コぐらいにしよう」と全体の数を表裏で分ける姿、「ここは赤と赤だからダメ」と色の配置を考える姿など、子供なりによく考えていました。昨年はこいのぼりを作った経験がないにもかかわらず、友達と相談して大きなこいのぼりを作り上げた年長組は立派でした。それだけ「こいのぼりを作りたい」という思いが強かったのでしょう。心が動く環境の大切さを感じました。

土の庭に並んだ年長組のこいのぼりが風に揺れる姿を「わー、きれい」と眺めていた年中組。先生が場を作ると自分たちも作り始めました。好きな色のこいのぼり型の紙に、好きな色の丸いうろこをのりで貼り、嬉しそうに作っています。うろこの色の選び方や並べ方にも個性が出ています。紙の棒に糸でつけたので風が吹くとくるくる回り、「とんでる、とんでる！」と大喜びでした。

こいのぼりを持ち歩く年中組を見て、年少組も作りたくなったようです。先生が材料を用意すると、すぐに作り始めました。好きな色のこいのぼりに好きな色のシールを貼って嬉しそうです。小さい手で一生懸命にシールを貼っていました。幼稚園で初めて自分で作ったこいのぼりを持って、嬉しそうに園庭へ出かける姿が見られました。

こいのぼりや五月人形は、昔から子供たちの健やかな成長を願って飾られた日本の伝統行事です。青空に泳ぐこいのぼりや個性的なかわいいこいのぼりを眺めながら、子供たちの健康と成長、幸せを願わずにはいられません。3度目の緊急事態宣言が発令され、新型コロナウイルス感染予防対策を続ける毎日ですが、心にはゆとりをもち、子供たちが毎日元気に、目を輝かせて遊べるように、さらに知恵を出し合い、工夫を重ねていきたいと思えます。